



きやべつの会

vol.01
2020.12.

NEWS LETTER

下西1日マギーの会 きやべつの会



創設の経緯

下京西部医師会前会長 安田雄司

下京西部医師会は下京・南区の西2〜3に位置し、現在15病院があり、がん治療など最新で高水準の医療を日々行っております。しかし、がん拠点病院がありませんので、院内にがん治療を受けられた患者様やご家族を支援する「がん患者の会」が今までありませんでした。「地域のがんの患者さんやご家族が病院では相談できないこと、困っていること、悩んでいること、感じていることを共有し、少しでも心と体の支えとなるような居場所を築いていきたい」と私どもの医師会では2年間にわたってその準備をしてきました。このたびその「居場所作り」が立ち上がります。最初は医師会がお手伝いしますが、いずれは地域で患者様やご家族が自立した患者会に発展していただくことを心から願っております。

—赤ん坊が泣いても緩和—



きやべつの会のみなさんこんにちは。

私たちがこの「きやべつの会」を企画し始めた時のお話をしたいと思います。当時の下京西部医師会会長の先生が下京地区の「患者会」を是非設立したいとのことにて現在の企画委員の先生方を招集されました。ざっくりばらんな意見を聞きたいとのことにて夜9時ころの集合だったと思います。研究会がありその後少しお酒を飲んだ後出席したものでそこから日頃おとなしい私もおおらかになりずいぶん活発な討論となりました。（本当は大激論だったようです）内容は「赤ん坊が泣いても緩和が必要」という私に某先生（がた）は「そんなの関係ない。赤ん坊が泣くのは当たり前」そこで終わらないのが酔っ払い。「なんでそうなるの」が延々と続いたそうです（どれくらいだったかはつきりしません）。私が言いたかったことはやはり「赤ん坊が泣いても緩和が必要」なのです。赤ん坊は日本語が上手ではありません。言いたいことが言葉として言えないのです。おむつがぬれているのか、おなかがすいたのか。何らかの苦痛があるのです。母親はそれを一生懸命わかってろうとしてそのうちすぐにわかるようになります。これはおなかがすいたとき、これはおむつがぬれているとき。これは普通じゃない病院へ行こうなど一生懸命わかっていてわかるようになります。そして泣いている原因（苦痛）が取れるのです。そのような気持ちで接することが緩和なのです。だから「赤ん坊が泣いても緩和ケアが必要」なのです。すべての人々が緩和ケアの心を持つことが必要だと思います。



宇治徳洲会病院 川上明

実行委員からのメッセージ

がんを診断されたとき、治療をしているとき、がんと日々を付き合っていく中で、いろいろと感じることがあると思います。大切な人ががんになったときもいろいろと感じることがあると思います。

お茶を飲みながら、お菓子を食べながらそんな思いを互いに話していただけるような、がんの患者さんやご家族のもう一つの居場所のような所があればいいなあと以前から思っていました。東京に金沢にそして京都にもそんな場所は少しづつ増えています。そしてこの地域にも「きやべつの会」が誕生しました。

ちょっととした、がんにかかわる思い、悩んでいるのはあなただけじゃないかもしれません。ちょっとした体験談を聴くことで、気持ちが落ち着くかも。

「きやべつの会」にはがん患者さんやご家族、友人だけでなく、がんに関わっている医療従事者も白衣を着ることなく、患者さんと一緒に話をしていきます。

今はコロナ禍の中で、がんの患者さんに集まって頂ける場の提供がでなくなっています。なので、会誌を通じて少しでも交流したいと考えています。



京都九条病院
北川一智



きゃべつの会



NEWS LETTER

下西一日マギーの日 (きゃべつの会) 活動報告 前田康秀



2018年～2019年

第1回：H30年12月1日於：京都九条病院マムスクエア
参加者：11名

- ・講演「患者会ってなあ～に？」
川上明先生（西本願寺あそか診療所）

第2回：2019年3月16日 於：京都南病院地域交流ホール
参加者：18名

- ・患者会のルール説明：廣間文彦先生（新京都南病院）
- ・講演「患者会ってなあ～に？」
川上明先生（西本願寺あそか診療所）

第3回：2019年6月8日 於：康生会武田病院

- 参加者：11名
- ・患者会のルール説明：永田一洋先生（康生会武田病院）
 - ・講演「患者会ってなあ～に？」
川上明先生（西本願寺あそか診療所）

第4回：2019年9月7日 於：京都九条病院マムスクエア
参加者：7名

- ・患者会のルール説明：北川一智先生 京都九条病院
- ・講演「東京マギーに参加して」
下西事務 岡部さん 大前さん 見上さん
「傾聴の本当の意味は？」
川上明先生（宇治徳洲会病院）

第5回：2019年11月30日於：京都南病院 地域交流ホール
参加者 8名

- ・患者会のルール説明：廣間文彦先生（新京都南病院）
- ・講演 「がんと栄養について」 北川一智先生
片山影美子さん（京都九条病院 管理栄養士）



【きゃべつの会】とは

皆さんはきゃべつに
虫がいたらどう思いますか？
「わあ、気持ち悪い！」でしょうか？
「農薬が少ない証拠なので安心！」でしょうか？
人の物事の受け取り方や考えは様々。
そんな多様性を否定せず、それぞれの意見を
尊重できる会を目指しています。

実行委員からのメッセージ



皆さま、ご無沙汰しています。今年は大変不自由な生活を強いられ、また病院への不安もおありだったことでしょう。私達もお会いして声かけたいと思いながら物理的な距離を取らざるをえないことを心苦しく思っており、せめて心の距離は近くでありたいと、このメッセージが心を繋げてくれたらと思っています。

withコロナといわれますが、がん患者さんにとってはがんもwithです。治療や不安といかにうまく付き合っていくか、そのためには様々な医療者や仲間との繋がりが大きな力になります。会誌を通して「皆さんとの再会を心待ちにしている人がいる」と、いうことを知ってください。

今後も『きゃべつの会』が伝言板のように、医療者からの励ましや患者さん・ご家族の暮らしの知恵や工夫、心の持ち方など持ち寄れたらいいなと思っています。

今はそれぞれができることを行い、共にこの苦難を乗り越えて再開した際には、笑顔でお会いしましょう！



医療法人同仁会（社団）
前田留里

きゃべつの会

LINE@でお友達になりませんか！

ID: @903NUYTA

<友だち登録の方法> ※LINEアプリのダウンロードが必要です。

① スマートフォンのカメラでQRコードを読み取ってください。

② ID検索LINEアプリを起動し、「友だち追加」メニューの「ID検索」を選択、以下のIDを入力してください

お問合せ先：下京西部医師会
TEL 075-693-3900



発刊元
一般社団法人下京西部医師会
601-8452
南区唐橋堂ノ前町15-9エステート南ビル301
T) 693-3900、F) 693-3911